

生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 14 時～／成徳学舎)

2012 年度後期 第 2 回 ケーススタディ 1／京都での取り組み

担当：辻本恵太、大倉 朗寛

～講義の流れ～

1. 京都大学大学院生 辻本恵太さんの取り組み (14:00～／30分)
2. ディスカッション (15:00～／50分)
3. まとめ (15:50～／10分)

～内容～

1. 京都大学大学院生 辻本恵太さんの取り組み (14:00～／60分)
 - ・テーマ 「まなびを共有できる様々な場や機会づくりについて」
 - ※内容は別紙を参照してください。

2. ディスカッション (15:00～／50分)

3. まとめ (15:50～／10分)

任意団体 まなび

- 2011.10.15 設立（活動開始）
- 代表：辻本恵太 京都大学大学院理学研究科 博士後期課程 1年
- 理念：まなぶことのたのしさを発信する
- 活動内容
 - まなびの場づくりのためのツール及び手法の開発
 - 学校外でのこども向けの授業づくり
 - 地域での世代間交流を活かしたまなびの場づくり
 - 被災地での学習支援活動

「まなぶことのたのしさを発信する」ことを理念に掲げ、参加者が主体的かつたのしく取り組めるまなびの場作りのツール、手法の開発及び実践を行っている。ここでは主に京都での活動内容を紹介する。

京都は学生の街と呼ばれるように、学生の割合が非常に高いのが特徴である。学生はそれぞれの学部や課外活動において、それぞれがある分野において熱意を持って取り組み、専門性を身につけている。しかしその能力が就職活動以外の場面で活かされていることは少ない。そこで、大学生の専門性を活かして、学校外でのこども向け授業を行っている。大学生にそれぞれの専門分野で講師として授業を作成、実践してもらうことで、こどもたちにたくさんのまなびを提供し、講師の大学生自身にもその経験から多くをまなんでもらうことを目的としている。当団体が開催場所の確保、広報、授業の企画、実践のサポートなどを行うことで、学生が気軽に授業づくりに挑戦できる環境をつくり、多様な授業を実現してきた。

また、京都では異分野交流、世代間の交流にも力が注がれている。多くのコミュニティスペース、コワーキングスペースなどが存在し、職種や世代を超えた地域の交流の場となっている。ところが、こういった場でイベントが開催され、更なる交流が促進されるような機会は十分とはいえない。そこで、当団体は「まなび」をキーワードに各々が普段まなんでいることを持ち寄り、まなびを共有できる場作りを行っている。

これらの活動を通じて、個人がたのしく主体的にまなぶという姿勢を身につけられることを目指すと共に、個人のまなびが社会全体に役立つ仕組みを構築し、まなぶことの社会的価値を高めることを目的とし、他府県での活動やノウハウの体系化にも力を入れ、活動の普及、発展を目指している。

[活動①学生や社会人が講師となる小学生対象の授業づくり：ぼくらの特別授業]

地域の大学生や社会人が自分の専門性を活かして、こどもたちみんなが主役になれるたのしい授業をつくる。子供たちは受けたい授業だけをたくさんの科目の中から選択して参加、たのしく主体的にまなんでいく。また、教員・教員志望の方やお子さまのご両親にも開かれた場にするすることで、多くの人が集まって一緒に教育について考え、実践していける場所にしたいと考えている。

まなぶことのたのしさを発信できる人 [大学生・社会人]とまなぶことをたのしめる人 [こども]を地域発でつくりだすことを目的とする。

----- 今までの内容（一部） -----

●[英語]音楽でたのしむイングリッシュ

→ギターの弾き語りお兄さん[大学院生]と一緒にたのしく英語の唄を歌いながら、英語に触れる授業を行った。英語ができた、という自信と感動を楽しさと共に味わうことができる授業となった。

●[理科]さかなの気持ちで池づくり

→日本庭園のさかなが主人公となる授業。さかなの気持ちになってみんなで考え、画用紙いっぱい理想の池づくりを行った。魚と琵琶湖が大好きないきもの先生[大学院生]から自分たちが作った池にコメントをしてもらい、魚の気持ちを理解しながら、生き物のことを深く考える機会となった。

まなび では、まなんでいることがあるけど、発揮する場所がない。自分がまなんでいることの、世間の反応が知りたい。という方々の授業づくり、実践をサポートしていく。今後は、まだ実施例のない[図工]や[体育]、他にも学校の科目体系にとらわれず、[防災]、[ボランティア]などの特別授業も作り、地域の授業としての価値を高めていきたいと考えている。現在は学習塾の空き教室を利用し、不定期で実施しているが、今後は会場数、授業数ともに充実させていきたいと考えている。

[活動② まなぶことを通じた地域の交流の場：まなびの地域カフェ]

まなび × 地域 を掲げ、まなび（知識、経験）の共有、及び地域の活性化を目的とした活動。毎回さまざまな「まなび」を各自が持ち寄り、参加者全員でたのしみながらトークや、ワークショップなどを行いまなびを共有する。世代間での交流も促進するべく世代を問わず気軽に利用できるコミュニティカフェ（アンテナカフェ丸太町）を拠点に活動している。

現在まで様々なテーマで活動してきたが、参加者全員が主体的に関わることのできるテーマであること、世代を超えて一緒に話あえるテーマであることを常に意識して行ってきた。以下に過去の実践例の一部を紹介する。

----- 今までの内容（一部） -----

●地域の〇〇を紹介！

地域 × 〇〇 と書いたカードを用意しそれぞれが自分の得意分野で、かつ地域に関係するネタを話し合った。地域×生き物➡地域に住むたくさんの生き物の種類などについて解説する、という内容や、地域×聖地巡礼（人気アニメの舞台となった地を尋ねること）➡アニメの舞台となっている場所についての解説をする、といった内容まで多岐に渡る内容で盛り上がりを見せた。

●即興名刺交換大会

自分を紹介できる名刺を即興でたくさん作り、その後に交換しあうという形式のワークショップ。最後は一番心に残った人の「他己紹介」で締めくくった。仕事の名刺だけでなく趣味やニックネームの名刺をつくり、色々な視点で名刺交換を行った。従来の名刺交換より遥かに記憶に残るものとなり、交流の場としての可能性を見せた。

活動拠点のアンテナカフェ丸太町では学生がインターン生としてカフェの企画、運営の大部分を担っており、その結果カフェを訪れる方の層も学生が中心になりがちである。世代を問わずたのしめるイベントを多く開催していくことで、世代間の交流が盛んなコミュニティの形成を目指す。

団体としては上記の活動だけでなく、被災地での学習支援活動や、サイエンスコミュニケーションの手法の開発、実施など、活動内容は多岐に渡る。今後もさらに活動の幅を広げるため、様々な団体と情報共有を行い、協力しながら活動を展開していきたいと考えている。またソーシャルメディア等を活動した広報にも力を入れ、活動の普及を目指し、社会的価値を高めていきたい。

[任意団体 まなび]

facebook ページ : <http://www.facebook.com/manabipage>